



卷頭言

恵みの賜物を受けて賛美の歌を歌いなさい

本郷教会牧師:安井 宣生

「あなたがたの中で苦しんでいる人は祈りなさい。喜んでいる人は、賛美の歌を歌いなさい」 ヤコブの手紙5章13節



教区女性会が「新しい歌を主にむかって歌おう」という主題を掲げての歩みを続け、それを単なる目標に留まらせらず、実際に共に主に向かって歌うという機会を持たれることに敬服し、教えられています。今回の「女性の集い」では、新しい歌として、ゴスペル賛美と手話賛美のワークショップが開かれます。日本福音ルーテル教会の多くの教会

の主日礼拝においては、あまり持つことのない形での賛美であり、それに取り組むことが新しい歌を歌うことなのだと受け止めています。普段は触れることができない新鮮さがあります。これらの賛美は共に、賛美する言葉や心があたたかさを放つものであるように思います。そして放たれたぬくもりは集う人の心で受け取られ、不思議と心が熱くされるのです。個人的には大好きなことです。

しかし、新しさというのは、何も形についての新鮮さということに留まらないものもあるでしょう。たとえ、お馴染みの形であったとしても、私たちは神によって新しさが吹き込まれ、新たにされうるのです。

人は鼻に神さまからの生命の息を吹き込まれて生きるものとなったと、天地創造の物語は告げています(創世記2章7節)。神が私たちに聖霊を吹き込んでくださる。ひとり一人に対して、そのいのちの始まりにおいても、人生のいかなる場面においても、そして今この時も。

誕生した赤ちゃんがはじめにしなければならないことは、

息を吸うことです。そして、赤ちゃんは吸った息を吐き出す時に「オギヤー」と声を上げるのです。歌で賛美をすることも同じでしょう。息を、聖霊を吸い込む。するとそれが言葉と共に歌となって表れ出るのです。ですから新しい歌をすることは、まず神からの靈を吸い込むことから始まります。そうして私たちは新しい歌を歌う者とされます。先に神の働きかけがあり、それによって私たちがその働きの受け手となり、それを分かち合う担い手とされるのです。

一方的に恵みが吹き込まれ、それによって人は生かされる。これこそ宗教改革が指し示すことであり、私たちの信仰の中心です。ルターはいくつもの賛美歌を作り、皆で共に歌いました。また多くの人に歌で賛美する機会を提供することになりました。民衆が日常の言葉で賛美を歌うことは、まさしく新しいことでした。それは神の恵みによって生かされる喜びを、だれもが自身の声や言葉によって溢れさせていくことを導き、生きることそのものの力となりました。

今回のワークショップを担当される塩谷達也さんの著書『ゴスペルのチカラ』によると、ノリの良さで人気のあるゴスペル・ミュージックのルーツは、アメリカで奴隸として働かされていたアフリカの人々が、夜遅く、音がもれないよう濡らした布や敷物テントのようにした、白人雇用者たちには秘密の「隠れた教会」に集い、神に助けを求めて、歌い、踊り、希望を得たことであると述べられています。神の靈を求め、それを吸い込み、歌うことが、人を解放させ、生かす新たな歌となることを、私達も共に経験したいと思います。

ヤコブの手紙において、苦しみに祈り、喜びに歌えと勧められています。いかなる時も神が必ず心にかけ、慰め、励ましてくださる。だから、祈り、賛美する。命令のような言葉ですが、そうではなく、苦しみに祈り、喜びに歌えるようにと聖霊を注がれている事実と、それを吸い込んでよいことを伝えているのです。遠慮なく吸い込み、オギヤーと生きはじめがごとく、歌いましょう。

第6回“会長会＆女性の集い” ゴスペル&手話賛美ワークショップ

10月21日(土)本郷教会に於いて第6回女性の集いが開催されました。東京大学赤門前の道路を渡り郵便局裏に位置する本郷教会は昔から学生達が多く訪れた場所として、来会者を温かく歓迎してくれました。当日は小雨がぱらつく空模様にも係わらず、54名の姉妹兄弟が来会されました。

*第一部開会礼拝では安井宣生牧師の奨励「恵みの賜物を受けて賛美の歌を歌いなさい～あなたがたの中で苦しんでいる人は祈りなさい。喜んでいる人は、賛美の歌を歌いなさい：ヤコブの手紙5章13節」からお話をいただきました。

わたしたちが与えられているこの“土のうつわ”に感謝し、愛と喜びを持って他者と繋がっていかれますようにと祈りを新たにしました。昼食休憩は1階の学生センターへ移動し、皆学生気分？で和気あいあいと賑やかな親睦タイムとなりました。

*第二部は文字通り「新しい歌…ゴスペル&手話による賛美」のワークショップが開催されました。確かな信仰と情熱を合わせ持ち日本のゴスペル界の牽引役の一人でもある塩谷達也氏(日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団)をお迎

“女性の集いに参加して”

都南教会 *連下 恵子

「新しい歌を主に向って歌おう」のタイトルで開催された“女性の集い”的第2部は、ゴスペルと手話のワークショップでした。私は当初ゴスペルシンガーの塩谷達也さんのゴスペルを聞く会だと勘違いしていて、まさか自分が歌うことになろうとは思ってもみませんでした。ところが、「立って一緒に主を讃美しましょう！」と塩谷さんにリードされながら、みんなで「君は愛されるため生まれた」と言う歌を歌うことになりました。

ゴスペルを歌うのは初めて。ちょっと戸惑いながらも「君は愛されるため生まれた きみの生涯は愛で満ちている」と繰り返し何度も歌っているうちに、神様が自分に語り掛けて下さっているように感じられ、段々と胸が熱くなっていくのです。お隣の姉妹の方も、「涙が出ます」とおっしゃるので、「本当ですね」って答える私の目にも涙が滲み、一曲が終わりました。

塩谷さんが讃美は高速で私たちを神様へ近づけてくれるもので、とおっしゃっておられましたが、正にその通りでした。



私達が主の元に帰ろうとする時、私達を真っすぐにつきあつと運んでくれるのがゴスペル。神様ありがとう、感謝します、嬉しいですの気持ちを思いっ切り声にして全身全霊で主を讃美する。ゴスペルが少し解かつた気がしました。

塩谷さんの天に向かって突き抜けるような素晴らしいゴスペルは、本当に感動的でした。何人もの人が塩谷さんの讃美を通して救われたと伺いましたが、聖霊に満たされて用いられているそのお働きにとても励されました。

参加者全員がソプラノ、アルト、テノールに分かれチャレンジしたゴスペル。また大森ルーテル幼稚園の竹内明美さんが楽しく教えて下さった手話での讃美。どちらも初体験でしたが、女性の集いのみなさんと一緒に出来たのが本当に楽しかったです。台風の影響で外は雨でしたが、心は正に塩谷さんが教えて下さったスイート(sweet)な気持ちで満たされ家路につきました。今回のワークショップを準備して下さった委員の皆様に感謝致します。



与えられた土の器 心も体も委ねて 新しい歌を主に向かって歌おう

えしたオープニング…。軽妙かつ温かな塩谷さんの語りと賛美リードが、まるで寄せては引く波の如く私たちの心をノックし続けると…戸惑いの扉が自然と開かれ身も心も解き放たれて～神さまが直接語りかけてくださり～様々な思い、感謝、祈りが音の調べに乗り、内側からシンプルに主への賛美となつて湧き出てきました。さあ、もう賛美の心は止められません。

すっかりリフレッシュした私たちは、幼児教育の経験豊かな竹内明美氏(大森ルーテル幼稚園副園長・板橋教会)の小気

味よいリードに誘われて子ども讃美歌を手話と共に歌うことに挑戦しました。“空と海つくられた主は、あなたの主わたしの神。罪をゆるし救いたもうみんなの主。イエスは主ハレルヤ！イエスは主ハレルヤ！イエスは主ハレルヤ！みんなの主”…ゴスペルと手話賛美を通して「幼子のように神の国を受け入れる人でなければ、そこに入ることはできない」とのみ言葉を実感。窓から見える小雨が、絶え間なく降り注ぐ主の恵みに感じられて、更に新しい賛美の輪が拡がっていく良き時となりました。 Hallelujah!



心が温かくなり、穏やかな時間

三鷹教会 * 木原 伊都子

主の尊い御名を賛美します。第6回女性の集い『新しい歌を主に向かって歌おう♪』に参加させていただきました。折りしも、一週間前の主日礼拝の中で、終わりの歌:教会讃美歌382番「ここはかみの」を週目の疲れでヘトヘトに疲れ切って力なく歌い始めたのですが、途中で、静かにしかし力強く主が触れて下さり涙が溢れ出てきて、賛美のうちに住まわれる主のご臨在に力付けられたばかりでした。

午前の開会礼拝では、安井宣生先生からヤコブの手紙5章13節から奨励をいただき、私たちは賛美の歌を歌うとき、まず、神様からの息を吹きかけられて神の靈をいただいて、そして賛美するのだとのメッセージが心に響きました。感謝致します。

午後に持たれたゴスペルや手話賛美を歌うワークショップでは、まず塩谷達也さんを講師にお迎えして、ゴスペルを体験しました。「君は愛されるため生まれた」や「心熱くして」や「主の祈り」を塩谷さんのリードのもと歌いました。ゴスペルは今ではノンクリスチヤンの人たちも歌ってポピュラーになっていますが、もともとは、



アメリカで信仰をもった黒人奴隸たちが奴隸主に見つからないための工夫として歌声が外に漏れないように濡らした布や敷物をテントのように掛け、その内側で固まって歌ったりしたのが発祥だそうです。ゴスペルの中にそのようなスピリチュアルな真髄があるからこそ、ゴスペルを通して、主に出会い、信仰を持つ人たちが、塩谷さんのゴスペル教室でも沢山いるそうです。普段歌いなれている讃美歌と違って、最初はとまどいの雰囲気がありましたが、すぐに会場は熱い歌声につつまれ、また普段から培われている皆さまの高い音楽性によって、三声に分かれて素敵なおコーラスとなりました。

また、大森ルーテル幼稚園で副園長をされている竹内明美さんの手話賛美も楽しく喜びがあり、教会の子ども達と一緒にやってみたいと思いました。

宗教改革500年を迎えたこの時、その大いなる恵みの中に共に生かされていることを覚えつつ、日々、主によって新たにされ、日々、感謝と喜びのうちに、新しい歌を主に向かって歌っていきたいと思います。

❖ACWC一日研修会「キリストに結ばれて」 *あなたがたはキリストに於いて満たされているのです*

10月27日(金)日本基督教団富士見町教会を会場に、ACWC-アジア委教会婦人会議日本委員会の一日研修会が開催されました。好天に恵まれて来場者も多く盛況となりました。今回はミャンマーが当番国となって作成された式文を用いて礼拝が行われました。

「不当な利益を求める悪い習慣、心身を滅ぼして富を得ること、世の富のために魂を売ってしまうこと、闘争心、憎しみ、わたしたちがキリストにあって兄弟姉妹であることを否定することから、この世の奴隸となること、悪い仲間と交わることから、私たちを逃れさせてください。」

「勤勉に働く人たちを導き、守り、養ってください。政府が国を知恵で治めるように導いてください。」

「どうぞ主よ、お急ぎください。介護者を思いやる人がもっと増えますように。他者の幸福のために働く正直な実業家がもっと増えますように。そして人々の快適で幸福な生活のために互いに仕え合う人々がもっと増えますように。」

「わたしたちが、わたしたちよりももっと安全を必要としている人々のことを忘れ、自分たちの安全に満足していることをどうかお赦しください。主よ、あわれんでください。」

(ACWC当日配布資料:式文より抜粋)

メッセージ: 勝籠 実香師

【聖書箇所】

- ・コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章16～19節
- ・エフェソの信徒への手紙4章32節「互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださいに、赦し合いなさい。」
- ・エフェソの信徒への手紙 2章14～16節/コロサイの信徒への手紙 1章20節/ローマの信徒への手紙5章10、11節

発題: 斎藤 美津栄氏

この町に住み、この街に育てられた体験 「こども食堂の試み」 マタイによる福音書28章16～20節

1. ハンディを持つ子どもとの出会い

1994年統合教育の現場を与えられ、共に生きる会の活動を通して多くの障がい児と出会う。そして、共にすごそうとの試みを開始。

2. 多摩市への転居

保育園卒園児との再度の出会いを試みて1978年9月ゆづり葉の家設立。“お茶を飲みに来てください”的なスタンスで、気軽に子どもを遊ばせて母たちは、お茶のみと不安・不満を出し合い共にあることの大切さを伝えるために。

3. ゆづり葉の家をNPO法人とする: 2002年

子どもクラブ活動を主な事業として

・音楽教室、公園掃除、保育園の戸締まりと修理、福祉農園での野菜作り

学会期の子どもたち 20人と支援者10人

・グループホーム開設

4. 働く場を得ようと試みる-高齢者の居場所作り: 1996年

ショートステイ事業、ヘルパー派遣事業

・女性用グループホーム開設、就労支援事業B型 開始
それぞれ糸余曲折しつつ、比較的順調に事業は進展

5. 街づくりの視点をどこに? 子ども食堂を開始

献金の祈り:

【祈りのパートナー国カンボジアのための祈り】

- ・カンボジアの全人口9割が仏教徒の中で、クリスチャンとしての信仰を貫くことができるようになります。
 - ・子どもの学校教育のための教員の育成と、幼稚園、学校の建設が計画通りに行われるようになります。
 - ・医療施設と医療スタッフが確保されるように祈ります。
 - ・全国民の半数を超える貧困層の人々が、差別されることなく、平和な暮らしができるように、特に女性の地位向上と子どもに基本的な教育が保証されるように祈ります。
 - ・カンボジア国内には、かつての内戦の影響で地方には未だ地雷と不発弾が埋まっています。その処理が行われ、子どもへの被害がなくなるように祈ります。
 - ・政治的な安定のため、政治家がより良い政治を行うことができるよう祈ります。
- これからも互いに励まし、祈っていくことができるよう祈ります。
- ◆勝籠 実香(かつの みか)師:2004年3月救世軍清瀬小隊に着任。夫と共に救世軍清瀬小隊及び隣接する救世軍清瀬病院チャップレンに従事。



◆斎藤 美津栄(さいとう みづえ)氏:1960年、金沢キリスト教会付属幼稚園に勤務。1978年『ゆづり葉の家』を設立し、代表。1990年東京バプテスト神学校 教会教育専攻科終了。川崎バプテスト教会教育主任。日本バプテスト連盟府中バプテスト教会教育主任。立川キリスト教会 町田伝道所教育主任。1995年「障害」者教会委員会委員。2017年立川キリスト教会 多摩みぎわ伝道所 教会主任。

❖ 特集: 子ども食堂 2200カ所超

支援団体調査 自治体補助広がる



地域の子どもに無料か安価で食事を提供する「子ども食堂」が、全国に2286カ所あることがわかった。地域交流の場として認知度が上がったことに加え、「子どもの見守りの場」として期待する自治体から補助金が開設を後押ししていることが背景にある。

学者や各地子ども食堂の運営者で構成し、食堂の支援普及に取り組む「子ども食堂安心・安全向上委員会」(湯浅誠法政大学

聖書研究:布川 悅子氏

①コロサイの信徒への手紙 2章9～15節

9キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとて宿っており、10あなたがたは、キリストにおいて満たされているのです。キリストは全ての支配や権威の頭です。11あなたがたはキリストにおいて、手によらない割礼、つまり肉の体を脱ぎ捨てるキリストの割礼を受け、12洗礼によって、キリストと共に葬られ、また、キリストを死者の中から復活させた神の力を信じて、キリストと共に復活させられたのです。13肉に割礼を受けず、罪の中にいて死んでいたあなたがたを、神はキリストと共に生かしてくださったのです。神は、わたしたちの一切の罪を赦し、14規則によってわたしたちを訴えて不利に陥れていた証書を破棄し、これを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。15そして、もろもろの支配と権威の武装を解除し、キリストの勝利の列に従えて、公然とさらしものになさいました。

②3章1～4節

1さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。2上にあるものに心を

留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。3あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。4あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。

【概要】

①2章9～15節

- ④肉の体を脱ぎ捨てる。
- ⑤洗礼によってキリストと共に葬られ、キリストと共に復活させられた。
- ⑥キリストにおいて満たされている。

②3章1～4節

- ⑦上にあるものを求める。
- ⑧隠されている命が明らかにされる。
- ⑨上にあるものを求めて地上を生きる。-キリスト者の歩み。

◆布川 悅子(ふかわ えつこ)氏:日本聖公会東京教区渋谷聖公会聖ミカエル教会信徒。1990年～2014年/一般財団法人真生会館聖書センター勤務。ミサで朗読される聖書箇所の解説を担当。現在、聖公会神学院及び立教女学院短期大学で非常勤講師として新約聖書を担当。日本聖書協会新翻訳事業では、言語担当として新約聖書翻訳に従事。



教授)が3日、東京都内で発表した。1月～3月に全国の社会福祉協議会から聞き取り、さらに子ども食堂の運営者らによる調査を集計した。最多は東京都の335カ所。最少は徳島県の7カ所だった。

2016年5月に朝日新聞が各地の子ども食堂のネットワークや団体に聞き取って集計した時は319カ所。手法は異なるが、単純比較で2年弱で7倍超となつた。

子ども食堂は、貧困家庭や孤食の子どもに食事を提供する場として、12年頃から注目され始めた。運営はNPO法人や民間団体、個人など多様だ。食堂の利用者を限定しない所も多い。誰でも利用できるようにすることで、「貧困の子どもが行く食堂」という印象が薄まり、地域交流や子どもを見守る環境が生まれやすくなる。

こうしたことから、自治体が活動を支援する動きも出てきた。京都府は17年度に初めて約1千万円の予算を使って(上限20万円)や運営費(1回上限1万円、年150日まで)として43団体を支援した。

東京都では今年度から関係者の情報共有のため、市区町

■ 各都道府県の子ども食堂の数 ■

北海道	113	福島	13	東京	335	山梨	12	滋賀	95
青森	8	茨城	1	神奈川	169	長野	68	京都	94
岩手	17	栃木	23	新潟	28	岐阜	22	大阪	219
宮城	44	群馬	26	富山	8	静岡	40	兵庫	53
秋田	11	埼玉	83	石川	20	愛知	66	奈良	34
山形	8	千葉	62	福井	15	三重	26	和歌山	20

鳥取	27	香川	15	熊本	31
島根	19	愛媛	13	大分	30
岡山	25	高知	51	宮崎	18
広島	26	福岡	90	鹿児島	24
山口	14	佐賀	11	沖縄	127
徳島	7	長崎	7	合計	2286

◆特集:子ども食堂 P5より続く/朝日新聞日刊4月4日掲載

子ども食堂なお資金難 全国に2200カ所 目立つ個人経営

食中毒・事故に備え

子ども食堂が全国2300カ所近くまで広がった。ただ、参入の垣根が低く、個人が手弁当で運営する食堂も目立つ。食中毒やけがなどのリスク対応や、資金繩りといった課題も抱えている。

ローストチキンを食べた男児が突然吐き、おびえた周りの子どもが逃げ出した—。首都圏の子ども食堂で、こんな事態が発生した。設立間もない2016年のクリスマス会の日だ。

「ノロウイルスなら、すぐに閉鎖して！」。運営者の女性(38)は、保護者から詰め寄られた。すべての食材に火を通して、うがいや手洗いも徹底。それでも「新しい団体だから信頼できない」と言われた。

病院に連れて行き、食べ過ぎによる嘔吐と分かった。「不幸中の幸い。でも、ボランティアでも高い水準の安全管理が求められるのだと気づかされた」

食中毒や感染症対策といった食の安全への配慮は、子ども食堂の課題だ。滋賀県では、社会福祉協議会などが運営する「滋賀の縁創造実践センター」を立ち上げ、こうした対策の講習を実施している。同県守山市では今春、アレルギー

対策の講習も実施した。「もしも」に備え、各地の社協などは、食中毒や、事故によるけがに対応するボランティア保険を販売している。ただ、利用者1人あたり1回数十円程度かかり、年額が10万円規模の支払いになることもある。懐の厳しい食堂では赤字につながる。

3日に会見した「こども食堂安心・安全向上委員会」の湯浅誠代表は「利用者を増やすとすれば保険料がかかり、運営にかけられる予算は減る。悩ましい問題だ」と話す。

寄付・補助金あるが…

自治体などからの財政支援の広がりで子ども食堂の数は増えているが、運営が苦しい所は多い。

2年前から週1回程度、東京都新宿区内の3ヶ所で開く「新宿ニコニコ子ども食堂」も、補助金や寄付金頼みだ。都や社協から計40万円程度の支援を受ける。

運営する女性(60)は、「もっと多くの人に利用してもらいたいけれど、経費がかさみ限界。支援の芽をつまないよう、財政的な手当をしてほしい」と訴える。

P7へ続く ↗

シャロンの花 を訪ねて Vol.6

各人が使命感を持って

雪ケ谷教会は、93年の歴史を刻み、幼稚園と共に地域のシンボルとして、大田区雪谷3丁目にあります。私達の教会は、年間行事の一つとして、11月の最終日曜日に「教会コンサート」を開きます。このコンサートは、卒園児のお母様がご奉仕くださり、今年で34回となりました。今回も大盛況のうちに開催することができました。

さて、私達女性会はこの様な教会の中で活かされ、先ず、月に一回の聖書研究と輪読の時を持っています。(最近では「信徒のためのジェンダーパワー」)。また、田島牧師の指導をいただきながら、教会員全体で読書会もあります。女性会は、毎週昼食を用意したり、各祝会、集会の準備をします。



聖書研究＆輪読時間…静かな光に包まれて*



子どもの教会:ひたむきな眼差し*

雪ケ谷教会＊高橋 要子

また、長年続いた幼稚園とのバザーは今年「ルーテルこどもフェスティバル」となり、内容は少し変わりましたが、子ども達を楽しませ、地域の人達との親睦を旨とする信条は変わりません。今回女性会は、コーヒーショップを出店し、手作りクッキー・ケーキなどを販売し喜ばれました。

会員の年齢は上がってきましたが、各自バランスを取りながら活動しています。会員の中には、奏楽奉仕や子どもの教会の先生を長く続けている複数の方がおられます。また、ほしくずの会の活動に参加している方もおられます。この様にして、雪ケ谷教会・女性会は各人が使命感をもって行動し続ける群なのだと思います。



34回を迎えた教会コンサート♪*



▽ P6から続く

活動3年目を迎えた東京都世田谷区の「ようがこども食堂」は月1回、地区会館で開かれる。利用者は毎回140～180人ほどで、定員約40人の会場は4回転する。高校生以上は300円、中学生以下は無料だ。

調理や会場の準備などは、20人ほどの無償ボランティアが担う。食材は企業からの寄附もあって1回あたり1万5千円ほどに抑えている。利用料は食材費に消える。(浜田知宏、山内深紗子)

∞ 活動者支援組織 地域ごとに必要 ∞

「こども食堂ネットワーク」の釜池雄高事務局長の話

食中毒やけがといった「もしも」の備え、資金繰りはもちろん、人材や場所の確保、地域との連携など、運営者ごとに異なる課題が見えてきた。今後は、運営に役立つ補助金などの情報や安全管理の知識などを提供し、相談にも乗る地域毎の支援組織を作っていく必要がある。そうすることで、質を高め、地域と連携した子ども食堂にすることができる。子ども食堂は、垣根が低く多様な人の参加が見込める。貧困対策だけではなく、高齢者や困難を抱える人がほっとできる地域の居場所として息長く育ってほしい。

∞ ネット通じ保険料募る ∞

「こども食堂安心・安全向上委員会」は3日、食中毒やけがなどのリスクに対応した保険料を支援するため、クラウドファンディング(CF)を始める考えを明らかにした。

全国200食堂の保険料を支援する目標額は1千万円。週1回以下の活動には年1万円、それを越える活動には年3万円を、3年間渡すという。同委員会の調べでは、このCFで支援対象とする200食堂のうち、約半数の101カ所が保険に未加入だった。加入しているケースでは、年30万円以上払っている食堂もあるという。CFの募集期間は3日から80日間。問い合わせは同委員会事務局(077・567・3924)



シャロンの花 を訪ねて Vol.6

恵みの賜物を受けて

誰もが迷わず来会できる東京教会のロビーでは、遠方からの教会員が一服していたり、各部屋では聖歌隊の讃美歌練習や、書を楽しむ会の方が次週の説教題の準備をされています。隣室では、CSの子どもたちと先生が聖書の学びを、厨房では、当番が礼拝後のお茶の準備をしています。等々、恵みの賜物によって其々の奉仕がなされています。悩みを抱えている方に寄り添い祈るステファンミニスターがいますし、現在は第2期ミニスタートレーニングが開始されています。ペンテコステでは、聖霊の赤いバラが降り注ぎ、毎水曜日は牧師カフェが開店。活気溢れる教会の中で、女性会も気持ちだけは、負けていません。

教会行事以外の毎月第3日曜日の礼拝後に女性会例会を開いて共に食し、祈り、聖書朗読の後、牧師先生や神学生のお話しを伺います。その月の誕生者のお祝いはハッピーバースデーの歌と共にカードをプレゼント(今年はマザーテレサのカード)。年4回の愛餐会には、100人前後の

東京教会 * 見原 千代子

食事作りをしています。教会に来られない方に月1回、教会便り「きずな」などを発送し、英語礼拝の方々と、祈りのショールを編んでいます。一目一目、「神様、イエス様、聖霊」と心で祈りながら編んでいると、時々ギターの音色が心地よく流れてきて、まるで、聖霊が宿しているような至福の時間が流れます。5月のバザーでは、初挑戦のお焼き(悪戯苦闘しながら)を販売。教会員の皆さん、文句も言わずに買ってくださいました。きやらぶきや佃煮、アクリルたわしなどの手作り品も出品し、完売の瞬間に思わずハイタッチ、皆で喜びを分かち合いました。9月の一日神大バザーもケーキ、編み込み座布団、聖餐式用グラス洗いを出品、完売しました。来春には、教会員対象のキーマカレーと手打ちうどんの食堂バザーを開き、利益はCSや青年会に献金する予定です。女性会の皆さんの笑顔に会える楽しみが、いつまでも続きますようにと祈りつつ…



恵みの賜物と笑顔が集合 *



愛と気合いを込めて *



祝会では思い切り弾けます！ *

❖ 第19回子どもキャンプ『君に届け、神さまの愛！～ルターからの贈り物。ルターってどいつだ？～』

2017年夏、8月8日(火)～10日(木)ルーテル学院大学/日本ルーテル神学校を会場に子どもキャンプが開催されました。毎年広島と東京を1年毎に行き来して行われる夏のキャンプは“平和と愛・世界の国々のお友達と繋がろう”をテーマに今回は4グループ：リーダー9名・小学5・6年生参加者30名(東教区13名)が力を合わせてミッションをクリアする2泊3日のミニ共同生活。…宗教改革500年の格別な夏、ボスターの斬新なタイトルに主催者の意気込みを感じます。

さて、子どもたちは、どんな事・物・人との出会いがあったのかは、聞いてのお楽しみ…。TNGスタッフ、ユース・リーダーの働き(女性会のお手伝いも)に支えられて、2018年夏のキャンプが楽しみです♪

たくさんともだちつくろう！

たくさん笑っていっぱい話して

ぐっと学んで
とかんと楽しもう！



ジェンガで Go! * 本格派手作りソーセージに挑戦 *



挨拶タイム *

頼もしい厨房男子も *



ハイクポイント：ドイツ語で昼食を *



歌って踊ってルター音頭 *

いきいきとした奉仕・交わりの場、憩いの場

サフラングループという名前で活動している女性会は数年前まで働く婦人たちの“シャロンの会”、少し年配の先輩方の“いとすぎグループ”と三つの輪がありました。現在はサフラングループとして活動しています。教会行事と重ならない限り、毎月第一主日礼拝後に例会を開催しています。連盟会報の聖書研究を用いて感じたことや疑問などを自由に語り合い、年間計画から、毎月のテーマを担当者が練り上げた企画を男性も含めて参加者が楽しみ、交流の時を持っています。3月：“世界祈祷日式文”を用いた礼拝で、祈祷日当日に参加できない姉妹達と祈りと思いを共有しています。12月：“ディアコニアに生きた女性達”的テーマで聖書の中の女性達の働きについて学んだ後、デザートのお菓子類を持ち寄るポット



子どもクリスマス会*



女性会の総力結集*



姉妹兄弟と和やかな語らい*



桜の木の満開の下*

むさしの教会 * 萩森 恵美子

ラック形式でクリスマスをお祝いしました。手作りの美味しいお菓子をいただきながら“神さまへの感謝の気持ち・クリスマスについて・今の私の課題・印象に残ったこと・気になること”等などを分かち合いました。例会の他には7月～9月にかけて一日神学校でのミニショップ出店用に“手仕事会”を開催。教区女性会からのリクエストのクリスマスオーナメントとして、鳥・馬の可愛らしいオーナメント制作と、様々に趣向を凝らした作品を献品してくださる教員にも本当に感謝です。この群れがこれからも姉妹兄弟と共に、キリストの体なる教会(各個教会の境を越え)の一つとして、いきいきとした奉仕・交わりの場であり、また憩いの場でもありますように。



❖今年も東京老人ホームの兄弟姉妹と共に

12月9日(土)の晴れた週末の昼下がり、女性会で東京老人ホームを訪問しました。宗教改革500年の2017年、礼拝や関連行事の中22名の姉妹兄弟が協働参加して、第1部は新任の森下真樹施設長(:高橋睦前施設長にはたいへんお世話になりました。)のご挨拶と、お世話になっている清水スタッフから軽作業の説明を受けて、大判ビニール袋に新聞紙をセットして畳む作業を開始。最年少の4歳の坊や！もお手伝い参加で、一同黙々とひたすら手を動かしていました。

第2部は磯村直美姉と小山泉姉の流麗な歌と奏楽を来場者一同堪能して、「みんなの主(こども讃美歌:10月の女性の集いワークショップでマスター)」を手話と共に賛美。続いて被り物を付けて動物に扮した役員たちが手作り楽器を手に、「やまの音楽家たち」を元気よく披露しました。ご入居者と女性会メンバーも“吹き戻し”を思い切り吹いての大合唱参加です。総勢60名の笑顔と歌声がレクリエーション室いっぱいに弾け渡りました。

会の締め括りはご入居者全員への小さなクリスマスプレゼントです。これは各個教会女性会協働の手作りオーナメントにカードを添えたものですが、今ではご入居者が毎年楽しみにしてくださる“ホームと私たちを繋ぐ飾り”ともなっています。

こうして、ご入居者の健康と幸いなクリスマスを祈りながら、温もりを胸にホームを後にしたひとときに感謝でした。

❖見よ 兄弟が共に…恵み溢れる一時

むさしの教会 * 磯村 直美

「見よ 兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び」。この讃美歌のように神様の恵みに溢れる一時となりました。

一昨年に引き続き、昨年の12月9日東京老人ホームでの交流会へ皆さんとご一緒できましたことをとても嬉しく思っています。

1「見よ 兄弟が」

2「幸せなら手をたたこう」

3「Ave Maria(カッチーニ)」

4「故郷」

5「小さな空」の5曲を小山泉姉のピアノで歌わせていただきました。「幸せなら手をたたこう」では皆さんも手足を動かし、元気にご参加くださいましたので幸せな気持ちになりました。

～手をたたこう、肩たたこう、足ならそう、そして手をつなごう～となります。実際にはお隣まで手を伸ばすことができない方も多くいらっしゃいましたが、神様を通して心の中にある糸が紡がれて広がっていくような、そんな空気に包まれました。



私は歌いながら一番前にいらっしゃった方たちの手に触れさせていただきましたが、一人の方がギュッと握ってきてくださいって、それがとても温かく音楽の中で繋がれたことに感謝いたしました。「故郷」ではしっかりととしたお声で皆さん一緒に歌ってくださいました。

パート2では『女性会の愉快な仲間たち』のメンバーが手話をしながら「みんなの主」、そして手作り楽器や音が鳴る身近な物を楽器に見立て「山の音楽家」を演奏してくださいました。

聴きにいらしてくださった皆さんには懐かしい玩具の吹き戻しをお配りして、音楽に合わせながら呼吸の運動をしました。

皆さん、この日一番の笑顔になられていたのではないでしょうか。盛り上がってくださったので、最後にもう一度「幸せなら手をたたこう」を「幸せなら吹いてみよう」に言葉を代えて吹き戻しを楽しみました。お一人お一人の存在を尊び、神様の豊かな恵みが注がれるよう祈りながら、ミニクリスマスプレゼントもお渡しいたしました。この交流会がこれからもずっと続き、音楽で、祈りで皆さんと結ばれていくことを願っています。



見よ 兄弟が共に座っているなんという恵み、喜び*

山の音楽家？たち*



みんな、みんなお手伝い*

オーナメントにメッセージを添えて*



◆卒業式説教「最も小さい者の一人に」 *日本ルーテル神学校長 石居基夫



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご両親、保護者の皆さんには、心からお喜び申し上げます。

今から四年前の2014年、ルーテル学院大学はそれまでのキリスト教、社会福祉、臨床心理という3つの学科を人間福祉心理学科という一つの学科として、キリスト教的人間理解を深め、福祉も心理も自由に学びながら対人援助の専門性を身につけていくことの出来る新しい学科としてスタートしました。もちろん、それ以前の各学科時代に入学された方々、大学院、神学校の方もおられますけれど、今回初めて人間福祉心理学科の卒業生を送り出すことになります。多くの皆さんは第一期生ということになる。

もしかしたら、一期生故に、カリキュラムなどの面で多少不自由を感じられたことがあったかもしれません、それでも、人間を自然科学の分野からも社会科学の視点からも全人的に深く捉えて理解することを学んでくださった。とくに、生きるということの神秘、その生きる意味を問い合わせ、存在の確かさを求める魂の次元にまで深めて理解していく必要があることを学んでくださったと思います。福祉、心理を学ぶことの出来る学校は沢山ありますが、実践的な対人援助という視座にたって、一人ひとりのいのちと尊厳を守り支えていくことに、宗教的、

①

スピリチュアルな領域にまで触れながら学ぶことの出来ることは、本学ならではの、カリキュラムであったと思う。

ルーテル学院だからこそ、皆さんには、チャペルでも、またいろいろな授業でも聖書のことばに触れていただきました。聖書には、「生きる」ということを深く尋ね求めた時に、何かを見出してきた人たちがいて、その見出されてきたところを、なんとか分かち合おうとことばに紡いできた。そういうことばが記されている。だから、きっとその聖書のことばが皆さんのがれからの人生にも力になることがある、そう思っています。

卒業礼拝でお読みいただいた箇所。「この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたこと」ということばが書かれているのですけれど、これは、イエス様がたとえを話されたなかでのことばです。

神様に出逢うということが救いだとするなら、私たちはどこで神に出逢えるのだろう。どんなことに救いを見るのでしょうか。神に出逢うなんていうことは考えもしないかもしれません。けれど、自分たちが何かを望み、何かを目指して生きる。生きる意味を見出したいってもとめている。ああ、生きててよかったですと言える。そういう時を求めている。そういうことは、誰にもあるでしょう。そのことを、神をもとめるとか、救いということばの中で考えているんだと思っていただけたら少し分かるかもしれません。

思ったような就職をするとか、素晴らしい業績をあげるとか?大金持ちになるとか。願いごとがかなったら、それこそ神様に出逢ったよう

②



な喜びを思うでしょう。満たされるような喜びを求めていた。

でも、このたとえの中でイエス様が言われているのは、そんな皆さんの願いがかなうようなところで、神様と出逢うとは語られていない。だれかが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねる。誰かに具体的に手を差し出して、助ける。その時、あなたがたは私にしてくれたのだ。私に出逢ったのだと、そう言われている。誰かを支援する。そこにこそ、神と出逢う体験がある。救いを知ることだということです。

ふしきですね。私の願いがかなうなどということとは全く違っている。でも、もしかしたら、誰かのために生きることが出来たら、そこに本当に皆さんのがれの意味が輝いていくということじゃないでしょうか。

たとえば、皆さんのために生きてきたご両親にとって一番うれしくて、そのいのちが輝くのは、きっとご自分のことではなく、皆さんの支えになれたと思う時でしょう?生きるって、そういうことなんだと思う。

皆さんは、これから、どんなふうにご自分のいのちを輝かせていかれるでしょう。誰のために生きるでしょう。

今から丁度40年前、私は大学に入学するのですが、大学に入ったらあれをしよう、これもしたいと思ったことがたくさんあったのです。国文学か心理学を学びたいとも思っていました。けれど、自分の大学生活は結局、一番最初に受けた「教育

③

学」の授業で紹介された一冊の本との出逢いで、決定づけられました。「愛と共に感の教育」という本で、糸賀一雄という人の講演集でした。ご存知のとおり、近江学園、びわこ学園などを創設し、戦後日本の障害児福祉と教育に多大な貢献をした人でした。その人の本とあって、気がついてみたら、大学の卒論で取り組んだのは障害児教育でした。卒業時に、不思議なものだなと思い、改めてこの糸賀一雄の著作集を手にいれて読みました。彼がクリスチャンであったことは、その時に初めて知りました。

滋賀県庁の社会教育科で働いていた糸賀は、請われて戦後の混乱のなかでなかなか対策の行き届かない戦災孤児を助けていく施設創設に関わることとなり、またそこで障がいをもつ子どもたちへの支援、教育を生み出していく。社会福祉の父とまで呼ばれるようになったのです。差別も偏見もあるし、なかなか余裕のない時代に、この子どもたちのためにと、安定した仕事をなげうって、人々の理解と協力を求めて、これに取り組み尽力していく。この子たちこそ世を照らす光なんだって講演して回って、事業を推進していった。彼のなかに何が力になったのだろう。

著作集の中に、彼が当時考えていたことが書かれていました。糸賀は、子どもたちに出会って久しぶりにキリスト教信仰について考えたという。久しぶりにというのですから、当時は教会にもあまり通ってはいなかったのでしょう。彼は言います。自分の中にあるキリスト教の信仰によってこれをなそうというのではない。そうではなくて、自分が熱情によって動かさ

④

れている。そして、この働きの中でキリストに出会いたいのだと。先ほど読んだ聖書に通じるのです。困っている人がある。なにか援助を必要としている弱く、小さくされた人たちがある。その人たちと共に生きる。そこでキリストを見出す。

糸賀は、自分を働かせる力をうけていく、突き動かす情熱を燃え立てる神様のことばに生かされたのだと思う。

私は、こうした神のことばの力というものは一体何かと、さらに考えようになりました。そのことが、私が神学校に進むことになった一つの理由です。

とにかく、皆さんに触れてきていただいてきたのはこの神のことばです。

最も小さい者のために、あなたが、私がなすべきことがある。福祉も臨床心理も、きっとあなたのなすべきつとめを具体的にしていくための手だて、方法、実践力として身につけてもらえたことでしょう。けれども、皆さんが、この大学で受け取っているのは、それだけではなく、皆さんを搖り動かすようなみことばなのです。誰かのために。その人の必要に応えていくために。

そして、そのみことばは、同時に、皆さんご自身を必ず力づけ、慰め、励ます力をもっている。

糸賀一雄は、その働きのなかで誰にも理解されずに、困難に立ち止まることもあったでしょう。けれど、その時をどうして耐え抜くことが出来ただろう。どうして新しい一步を踏み出

せたのか。その力は、かれを生かすみことばにあったのではないかと、そう思う。

社会にでれば、また、いろんなことがあるでしょう。皆さん自身が傷つき、倒れちゃうこともあるかもしれない。人に分かってもらえなくて、ひとりぼっちだって、思うような時があるかも知れない。皆さんが触れてきた聖書のことばは、倒れているあなたを助け起こし、また、静かに見守り、あるいは勇気づける。しっかりと生きていく力を、あなたの中につくります。真っ暗な中でも、たえず新たな希望へと導く。そう信じています。

ルーテル学院は、誰かの役に立ちたい思いを形にするための大学です。皆さんのがんばりが輝くように、ここからの門出を祝したい。

そしていつでも、立ち止まることが必要になったら、皆さん自身が助けを必要としたら、この大学を訪ねて欲しいのです。皆さんをいつでも応援したい。支えたい。そのための大学でもあるのです。

さあ、ここから新しい歩みを進んでいきましょう。

ご卒業おめでとう。

*2018.3.9卒業式にて石居基夫先生の卒業生への“贈ることば”を拝聴して感謝を受け、ぜひ姉妹兄弟へお届けしたい旨をお話したところ、会報への掲載を快諾してくださいました。心より感謝いたします。

⑥



ルーテル学院大学・神学校チャペル*



学び舎での過ぎし日への感謝と
未来への期待に胸膨らませ*



4名の神学生の新たな旅立ち*

❖「ほしくずの会」を知っていますか？

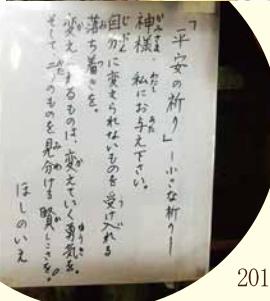
「ほしのいえ」では炊き出しとしてお握りとお味噌汁を毎月4～5回は火曜日の夕食にと準備しています。200名分の食事の準備には沢山の人手が要ります。ご飯を炊いてすぐにお握りにし、冷めないように発泡スチロール箱に詰める、お箸がなくとも食べられるように具が細かく切られたお味噌汁は保温機能付きの容器にいれる、山谷は4ヶ所を車で回り列を作つて待っている方々に食事を届ける。お握りにしても梅干しの種を取り除く、海苔を切るなどの準備が必要です。

日本福音ルーテル教会の有志は「ほしくずの会」を作り、30近くの長い年月をほしのいえの様々な活動の中でも、特に炊き出しに力を注いきました。

山谷で開始したデイケアルームのほしのいえは1991年に諸事情により活動中止になりましたが、1994年6月に都電荒川線の三ノ輪駅近くで再開しました。その活動趣旨は「山谷からの視点で社会的に不利な立場に置かれた人々の生活や人権を守るために連帯を大切にすることを目的とし、炊き出しや夜回り、作業



第1回活動委員会会合 於：三ノ輪ほしのいえ



*カトリック徳田教会の方々と共に むさしの教会*大森はつ子

「ほしのいえ」の活動は、荒川区にあるほしのいえでの活動に加え、毎月第4週火曜日は中野区にある徳田カトリック教会礼拝堂横の信徒会館で午後一時から12～13人が集まって、400個近く(半年前までは700個でした)のおにぎり作りを実践しています。その方たちを紹介したいと思います。

リーダーの桜井宣子さん、手話通訳者の吉野さん、結んだおにぎりを車で台東区の「ほしのいえ」迄運び、数カ所の公園へ配って下さる三上さん(徳田教会の男性会員)です。そのほかに、信徒の方々数人とシスターの方々です。中休みの時間に、用意してくださったお茶を頂きながら色々の教会のこと、政治、社会の事などを話し合います。この方々なくしては、成り立たない活動だと、ルーテル教会の私たちはこの「愛の実践活動」に連帯できます喜びを感じています。桜井さんはこの活動に参加されて10年以上になりますが、そのきっかけをお訪ねしたところ、ある日新聞で「ほしのいえ」の活動を知り、「自分を変えたい」という思いに駆られて先輩の三上さんを頼って参加されるようになったそうです。いつも凜として活動されているお姿に、私たちはキリストに仕える者のお手本を見るようで励まされているのです。

(ほしくずの会 第42号会報より)

ほしくずの会活動委員会委員長 安藤淑子

所としての活動を行う」(ほしのいえのパンフレットから引用)というものでした。

ほしのいえはカトリック教会、日本基督教団、日本福音ルーテル教会の牧師と信徒、カトリック修道士会の司祭とシスター達によって再開されましたが、ほしくずの会は前述の趣旨に沿って、みな様のお祈りとお支えにより活動を続けています。

日本福音ルーテル教会の活動は多岐に渡りますが、その一部門にディアコニアがあります。マタイによる福音書25章にありますように他者に使える活動をしていますが、ほしくずの会も東教区のディアコニア活動の一端を担っています。

ほしのいえが三ノ輪駅近くにあることからも、東教区女性会の方々が特に力強く支えてくださっています。

これからもどうぞよろしくお願ひ致します。

お問合せ：03-3742-7075

郵便振替：00100 - 3 - 661453 ほしくずの会

*会計報告

大岡山教会*関口 佳子

2016年1月、東京新聞が少年や若者による「ホームレス襲撃事件」を取り上げました。その記事によると、学校にも家にも自分の居場所がない「心のホームレス」状態にある少年が3人ぐらいでグループを作り、自分より弱い立場にある人たちを襲い、うつぶんをはらしたという事件でした。社会問題に対して関心を持ち「自己責任では解決できない問題がある」ことに気づかせる教育が学校でも家庭でもなされることが必要だと結んでありました。

2017年6月1日～2017年11月30日 単位:円

収 入	支 出	内 訳
前期繰越金 152,352	炊き出し費 300,000	
献 金 227,000	通信事務費 26,284	切手、封筒、印刷費
	振替手数料 2,760	振替手数料を払込人負担
	次期繰越 50,308	から加入者負担へ切替

次期繰越を見て愕然としました。でも、定額預金を解約しないで済んだから、まあいいかという感じです。ギリギリのところで主が必要を満たしてくださっていることに感謝です。

(ほしくずの会 第42号会報より)

❖NCC世界祈祷日「すべて神の造られたものはとてもよい」

スリナムからのメッセージ

世界祈祷日は多様なキリスト教の伝統を共有するキリスト者女性により、1877年にアメリカの女性たちが移住者や抑圧されている人たちを覚えて始まりました。2度の世界大戦の経験から、地球規模の視野を持って和解と平和を求める祈りによる世界的な運動に発展しました。毎年3月第1金曜に、テーマに沿って祈り合い、世界的なネットワークを持つ女性たちと祈りと行動を続けています。世界祈祷日の献金は、世界祈祷日国際委員会(WDP)を通して式文作成国や国内外の女性たちの働きのために捧げられます。

2018年の世界祈祷日礼拝は3月2日(金)の13時半より日本福音ルーテル東京教会において開催されました。

◆キャロル・サック宣教師(アメリカ福音ルーテル教会宣教師・JELAリラ・プレカリア研修講座ディレクター)から「私たちは神さまの目には高く尊いもの:そのままに愛されていること、一人ひとりがとても大切な存在です。そして、大切であるから、互いの違いを認めましょう」との奨励を受けました。

◆式文を用いて「私たちは造り主から与えられた美しい国に住んでいます。それは、私たちが大切にしなければならない特別な贈り物ではないでしょうか。川のある素晴らしい森と山々の美しい自然。美しい花々や動物たちが息づき、全ての人に十分な食べ物がある豊かな国。この贈り物を次世代に手渡せるように、大切にしようではありませんか。自然と同じく、神の似姿に造られた私たち人間も、DV(ドメスティック・バイオレンス)や貧困、異なる民族、宗教、生活習慣、価値観から他者を傷つけてはいないでしょうか。」とのメッセージにスリナムの女性と子どもたちを覚えて祈りました。

◆高橋のぞみ姉の奏楽・森井佳子姉「天使の糧」の奉唱賛美に祈りを

合わせた後、小勝奈保子牧師(聖パウロ教会牧師・東教区社会部部長)から祝祷を受け第1部を終了。

◆第2部では大和友子姉(横浜英和小学校教諭)「水俣病から学ぶ~和解と正義による再生と希望の道~」の奨励から、日本の水俣で起きたこと、加害者と被害者の間の破壊された関係と感情・思いは、如何にして修復され得るのか。「もやい直し…こわれてしまった人と人、人と自然との関わりを協力して取り戻す。」意見の違いを認めた上で、対話し理解し合い、赦し合うこと、そこから再生の道が開かれ、未来への希望へつながっていくことは容易ではないが、諦めずに取り組むことの意味を学びました。

◆出席者:244名(14教派:91教会)、25万1千477円が献げられたことに感謝いたします。献金はNCC女性委員会を通して送金され、各団体(式文P39に記載)の必要を支えていきます。

本年はルーテル教会が東京地区の準備委員会を担当し無事終了、来年の担当者へ引継ぎとなります。ここに、主の守りと祝福とみなさまの協働に心より感謝いたします。



キャロル・サック宣教師*



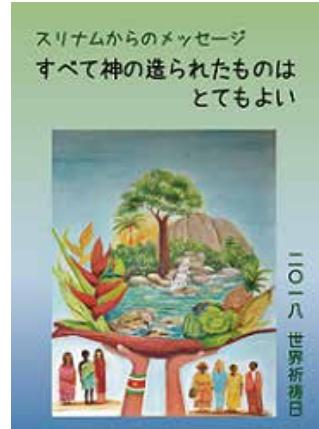
大和友子氏*



スリナムの式文を朗読*



スリナムの式文を朗読*



二〇一八 世界祈祷日

**2019年の世界祈祷日は
3月1日(金)
…スロベニアからのメッセージ…**

2019年は準備委員当番教派:
日本基督教団東京教区・西東京教区が担当します。

世界の、日本の各所で毎年3月の第1金曜日を基本に開催される世界祈祷日。その年の式文作成担当国の現状や女性・子どもたちの課題を学び、祈りを合わせます。遠く離れていても相手を思い気持ちを寄せて、祈りによって繋がることができる恵みと働きを覚えてご参加ください。



❖第24回東教区女性会総会報告

2018年2月10日(土)10:30~16:00 東京教会礼拝堂・1階会議室に於いて、第24回東教区女性会総会が開催されました。正議員数60名の内、出席 正議員：42名、役員：7名、委任状：3名、欠席：4名、陪席：12名。

開会礼拝の後、諸報告に続いて審議事項（役員会提案）についての活発な意見交換・質疑応答がなされました。その後、採決による過半数以上にて審議案が可決されました。議場では、見解は其々あれど女性会の現状と未来への願い・希望はみな共通の強い思いを持ちつつ、これから女性会の姉妹兄弟の健やかな祝福された歩みを覚えて、共に手を携えて歩んでいくことを神に祈り閉会となりました。

I.開会礼拝：10:30～11:00

前 奏	
讃美歌 教会讃美歌 290番 (ガリラヤの風)	
聖 書 詩編40篇5節～6節	
祈 り	
説 教 「主のみ業をあおぎみる」宮本 新牧師 (田園調布教会)	
讃美歌 教会讃美歌346番 (はかりも知られぬ)	
祝 祷	
後 奏	

II.総会：11:00～12:30

II-1. 報告事項

- ①会長報告 八木 久美、連盟担当役員報告 根本 明子、
副会長報告 綱 春子・皿井 千穂子、書記報告 菱田 典子、
文書報告 保坂 和子
- ②質疑応答の後→一括承認
- ③会計報告 岸田 多希子、監査報告 立石 節子・大牧 正子
- ④質疑応答 昼食を挟み継続再審議

II-2. 総会：13:05～15:40

- ⑤24期新役員候補者紹介
- ⑥審議再開 質疑応答の後→監査報告及び2017年度決算承認
- ⑧第24期活動計画→賛成多数により承認・可決。
- ⑨2018年度予算 (案)→賛成多数により承認・可決。
- ⑩各協力委員からの活動報告
- ⑪24期会計監査委員選出 岸田 多希子、菱田 典子
→賛成多数により承認・可決。

⑫24期会長及び連盟担当役員選出

会長：市川 直美、連盟担当：坪本 告子が選出。
副会長・文書：垣内 恵子、書記：天木 鈴子
会計：成田 節子。



その後、新たに選出された第24期役員の姉妹たちと礼拝堂に移動して、一同立ち会いのもと、神と人の前での厳かな就任式に思いを新たにしました。

詳細は総会資料、総会報告書をご覧ください。

どうぞ24期役員会と各個教会女性会の姉妹兄弟を変わらずの熱い思いと祈りと協働によって共にお支えくださいませ。

末筆となりましたが、2015年からの3年間の23期女性会の歩みを共に祈り励ましてくださり、また協働によって共にお支えくださいましたことを役員会一同、心より感謝申し上げます。

…感謝と共に、主に向かって新しい歌を歌いつつ…

III.閉会礼拝：15:30～16:00

15:45～16:15

前 奏	
讃美歌 教会讃美歌 271番 (主は教会のもといとなり)	
聖 書 ローマの信徒への手紙12章9節～18節	
祈 り	
奨 励 市原 悠史牧師 (甲府・諏訪教会)	
讃美歌 教団讃美歌第二篇192番 (シャロンの花)	
祝 祷	
後 奏	

⑦審議事項

- ～柔軟性と活力ある女性会連盟東教区女性会をめざして～
- 規約第7条の付加変更について (役員)
【提案：教区役員は、原則として各地区から2名（甲信地区1名）とし、任期は3年とする。】→議場にて活発な審議の上、過半数以上にて承認・可決。

■規約第8条の付加変更について (役員会)

- 【提案：本会は、原則として会長1名、連盟担当役員1名、副会長2名、書記1名、文書1名、会計1名によって構成する】→過半数以上にて承認・可決。

■内規3の付加変更について (役員選出方法)

- 【提案：2行目…原則として3地区から各2名の役員を、甲信地区から1名の役員を選出する】→過半数以上にて承認・可決。

■協議事項：会長もしくは代理者の教区常議員会への出席 (陪席)について、連盟女性会会長もしくは代理者の本教会常議員会の陪席と同様の機会を持つことの可能性について。

→今後も出席・陪席について、議決権・発言権保有の意味を積極的に考える。

新役員会をよろしくお願ひいたします



新役員就任式*

♦監査報告【23期東教区女性会会計 2017年度決算・2018年度予算案】

2017年度（2017年1月1日～12月31日）東教区女性会会計決算、2018年度予算について監査結果をご報告いたします。
みなさまのお祈りとお支えの内に、2017年度の教区女性会会計が守られましたことを深く感謝申し上げます。

1. 監査日時：2018年1月15日（金）10時30分～14時00分
2. むきしの教会二階第一集会室
3. 監査人：立石 節子婦（第23回教区女性会総会選出）、大牧 正子婦（第23回教区女性会総会選出）
4. 立会人：岸田 多希子（教区女性会会計）、八木 久美（教区女性会会长）

収支決算・予算（案）

東教区女性会

23期

2017年度決算/2018年度予算（案）

単位：円

費 　目	2017年度		2018年度	2017年内訳
	予算	決算	予算（案）	
東教区会費	588,000	530,400	588,000	1,200円×442人
教区便り購読費	20,000	20,700	20,000	100×207部
教区活動支援献金	250,000	211,025	250,000	席上98,505 19教会2個人 85,940 東教区信徒育成基金 26,560
感謝献金	50,000	80,500	50,000	11教会
コーヒーショップ	60,000	104,548	60,000	コーヒーショップ・ミニショップ
雑 収 入	1,000	9	1,000	普通預金利子
用いたまえ愛の主よ基金	500,000	500,000	0	
小 計	1,469,000	1,447,182	969,000	
前 年 度 繰 越 金	975,580	975,580	1,335,088	
収 入 合 計	2,444,580	2,422,762	2,304,088	
教 区 便 り	90,000	68,628	90,000	印刷・発送等
会 議 費	70,000	173,418	110,000	説教・オルガニスト・講師等
交 通 費	200,000	228,788	200,000	役員会・会長会
教 区 交 流 費	150,000	124,389	150,000	遠距離教会交通費・教会訪問
支 地 区 活 動 費	30,000	30,000	120,000	甲信地区
次 世 代 育 成 支 援 金	80,000	68,800	80,000	TNG活動支援 神学生へ手帳
通 信 事 務 費	20,000	12,764	20,000	事務用品・郵便・通信
慶弔弔 費	10,000	10,000	10,000	献堂お祝い 小岩教会・日吉教会
予 備 費	10,000	0	10,000	
支 援 献 金	200,000	292,245	200,000	東北・熊本・ベタニア・千葉ベタニア・ほしくずの会・ ブラジル・東京老人ホーム・神学校
連盟総大会積立金	18,200	18,200	100,000	
東教区総会積立金	39,503	39,503	50,000	
コーヒーショップ	10,000	19,903	10,000	材料費・包装費
雑 費	5,000	1,036	5,000	振込手数料等
仮 受 金	0	0	0	
小 計	932,703	1,087,674	1,155,000	
次 年 度 繰 越 金	1,511,877	1,335,088	1,149,088	
支 出 合 計	2,444,580	2,422,762	2,304,088	

2017年度報告・2018年度予算

- * 支援金 東日本大震災支援金は、福島の復興のために献金いたしました。
- * 女性の集い席上献金の内40,000円を次年度の女性の集い費用としてプールし、2018年度会議費予算に計上いたしました。

* 女性会の活動発展のために、地区活動費を活用していただきたいとの願いを以て、120,000の予算を組みました。

支援献金 内訳（2017年）	連盟送金 内訳（2017年）
ほしくずの会 30,000	会費 1,149,200
東京老人ホーム 20,000	会報購読 112,300
ブラジル伝道 20,000	連盟支援 95,600
ベタニア 20,000	感謝献金 110,600
千葉ベタニア 20,000	サバ支援 205,400
神学校 82,245	リーストコイン 72,368
東日本 20,000	TNG 45,331
熊本 30,000	ACWC 600
宗教改革500年事業 50,000	計 1,791,399
計 292,245	

* コーヒーショップ 48,799 ミニショップ 33,466

現金・貯金・残高

現金	72,145	次年度繰越金	1,335,088
通常郵便貯金	1,412,943	積立金残高	650,000
定期・定額	500,000		
	1,985,088		1,985,088

(2017年 12月31日 現在)

* 定期・定額預金(旧)19期 用いたまえ愛の主よ基金 500,000円

連盟総・大会 教区総会積立金

	収入	支出	残高
連盟大会積立金	200,000		200,000
宿泊費		118,200	81,800
15年積立	100,000		
16年積立	100,000		
17年積立	18,200		300,000
教区総会積立金	300,000		300,000
総会費		89,503	210,497
15年積立	50,000		
16年積立	50,000		
17年積立	39,503		350,000

合計 650,000円



これからのお問い合わせ

● 第1回東教区女性会 “会長会&女性の集い”

『女性会にのぞむことは?』

- 日時：2018年4月14日（土）13:00～14:00
 会場：日本福音ルーテル大岡山教会
 第1部：開会礼拝：「友と呼ぶ」小勝奈保子牧師（聖パウロ教会牧師）
 ロマ書15章1～6節
 召天された姉妹を憶えての祈り
 第2部：会長・新役員あいさつ、各協力委員アピールほか
 ①各グループに分かれてディスカッション
 ②会堂に集合しディスカッションの内容を共有
 閉会礼拝：「疑いをも、包む愛」松岡俊一郎牧師（大岡山教会牧師）
 マタイ28章16～20節
 *男性、若者、どなたも大歓迎です！

● 第28回日本福音ルーテル教会全国総会・コーヒーショップ

- 日時：2018年5月3日～5日
 会場：日本福音ルーテル東京教会1階ロビー
 担当：24期教区女性会
 * みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。
 詳細は追ってご連絡します。

● ルーテル・医療と宗教の会 公開講演会

- 『DV（ドメスティックバイオレンス）からの回復』
 日時：2018年5月26日（土）13:30～15:30
 会場：日本福音ルーテル東京教会
 講師：中島幸子氏（NPO法人レジリエンス代表、米国法学博士、社会福祉学修士）
 入場無料：みなさまのご参加を歓迎いたします。
 共催：ルーテル・医療と宗教の会、東教区社会部



◆ 編・集・後・記 ◆

お世話になりました

「シャロンの花だより」の担当になって3年。
 多くの方々に協力頂いて通算6号のシャロンの花
 だよりを出すことが出来ました。
 感謝いたします。
 今、23期の歩みをゆっくりと振り返っているところです。
 これからもみなさまと一緒に歩む機会がたくさんありますように。
 (K.H.)

2/10教区女性会総会にて23期から24期へと
 タスキが掛けられました。祈り考え奔走し喜怒哀
 樂を深く味わい…新しい歌を主に向かって歌いつ
 つ歩んだ3年の軌跡…会長会&女性の集いに始ま
 り、本当に多くの人・事柄と出会い、姉妹兄弟との
 協働作業を通して多くの恵みに与りました。

主とみなさまに感謝いたします！
 これからも歩みにさらに期待して… (K.Y.)

● 第24回女性会連盟総・大会開催

東日本大震災から6年を迎えて、被災地訪問を予定しています。みなさまどうぞご参加ください。

- 日時：6月7日（木）～6月8日（金）
 場所：ホテル メルパルク名古屋
 名古屋市東区葵3-16-16
 【TEL】052-937-3535（代）【FAX】052-937-3673
 1日目：受付：12:30～ 2日目：受付：8:30～
 13:30/開会礼拝、9:00/祈り、議事1 報告
 召天者記念礼拝、聖餐式 10:00/議事2 審議
 15:00/基調講演：片岡輝美氏 昼食
 「主に喜ばれることを吟味する」 13:00/議事3 審議・役員選挙
 16:30/休憩・チェックイン 15:00/総会議事事項確認、
 16:45/分科会 新役員紹介、前役員退任挨拶
 17:45/休憩・チェックイン 15:30/派遣礼拝、役員就任式
 18:15/愛餐会 16:00/終了

*詳細は担当役員、連盟事務局へお問い合わせください。



東教区女性会会報 第92号(23期 第6号) 2018年4月1日

発行人：日本福音ルーテル教会女性会連盟 東教区女性会

発行者/編集：八木 久美 編集：保坂 和子